

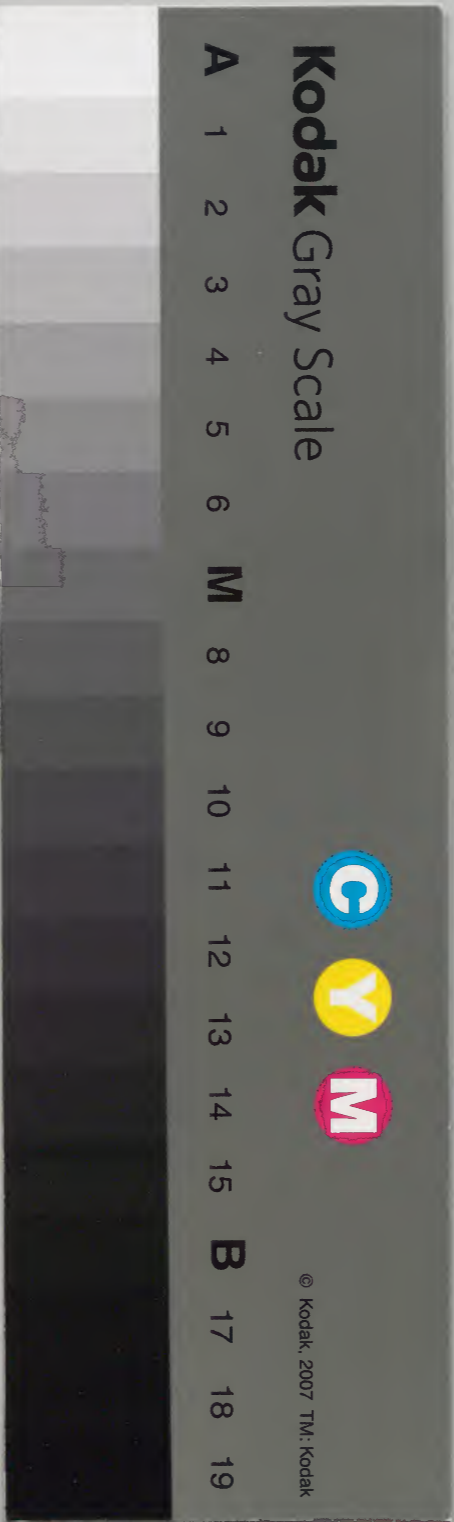
歌枕名寄

第九

| | | |
|------|---|---|
| 和書門 | | |
| 一八二七 | 四 | 號 |
| 一七三 | 函 | |
| 九 | 架 | |
| 三七 | 冊 | |

| | | |
|------|------|---|
| 內閣文庫 | | |
| 和書 | 一八二七 | 四 |
| 函 | 一七三 | 架 |
| 冊 | 九 | 架 |
| 架 | 三七 | 冊 |

| | |
|------|---------|
| 內閣文庫 | |
| 番號 | 和 18274 |
| 冊數 | 39(10) |
| 函號 | 202 123 |





新編枕名寄卷第九

幾内部九

大和園

淺草文庫

雜篇

石上

布留

高圓

卷向

檜原

痛足

弓槻嶽

珠城宮

三輪

泊瀬

忍坂山

古河道



三浦 山崎
 藤原 藤原
 公上 公上
 高田 高田

藤原 藤原
 藤原 藤原

大徳園

石上

寺

万七

拾一

山田

反拾五

時雨

寺

新六

苑

春日山やまたくらーのれり
 菅の根もと月まらひの
 まくれはまのうららるの
 りつゝをたき山田なれとも 忠見
 みよりわをわ道そにたる石上
 林をくれのわの海さうく 龍承
 けりよのう入まんとて久きれと
 ちれよのわのわののうとも
 ころりよのう入まんとて久きれと

茅系 茅花

新古一

続拾四

松

新古四

梓杜麻

古来 昔ぬ

小猿 三輪山

古十七

本拍

つらなわくへくわしはむらりな 衣室内大臣

石上布衣のさくらう花うら

ちかいつれぬことかきん 通具

石上布衣の松のどまそ

びくこのこと林乃も月せ 前内大臣

これまた老のあそびなりあそび

まてあつたきし海にたぬり 隆親

ふ月ぬのつら那のゆきみくれ

あうようれきと梅の心りと 慈徳

いそのつみあつたものり

りとのこわいわきれうこよ 後人

続後二

道 芝草

新古三

白雨

続七

新古六

長目拍

新古十六

白雨のつらなわくへくわしはむらりな

あうようれきと梅の心りと 長方

あそびのつらなわくへくわしはむらりな

あうようれきと梅の心りと 芝草

あそびのつらなわくへくわしはむらりな

あうようれきと梅の心りと 教雅

あそびのつらなわくへくわしはむらりな

あうようれきと梅の心りと 信実

あそびのつらなわくへくわしはむらりな

あそびのつらなわくへくわしはむらりな

河

古川邊 古河岸 袖振河

具平親王

柳

杜若

万十二

瀧

鏡拾十六

古

石上少乃乃やけきりけ

かみもあふま乃きりな

いそのこも少乃をたけりきり

妻のりりといへりてきたり

吾妹兒哉 ワキモ コヤ アラ 志乃莫石上袖振

何 カハノ 將絶跡念候也 トオモヘヤ

いよと又ゆきてもみまわりのこ

少乃のたさるをわをりりて

右法親王白河殿七首号名取瀧

あつとてわろく瀧たさるよ

新

水まきりともあはるらん 萬葉集

新

右仁和のみなとみこはきりり

新

少乃のこもあはるらん

新

少乃のたさるよあはるらん

星

古野里 布衣

古

りあえん少乃のこもあはるらん

新

少乃のこもあはるらん

新

少乃のこもあはるらん

新

少乃のこもあはるらん

新

少乃のこもあはるらん

新

少乃のこもあはるらん

十五音

菫菜

つ花のこもあらのくまをまてそぬい
ひうめをまねれぬ花咲くやう小待花

堀百

桐橋

くらうくわ人もやうをぬいさうのこも
あちあちのまをばよさすたまたま歌伴

寛平方合

もつしとれあらの山里いふたん
まをまて人まや神のむらうん筆好忠

都

万九

旅の山まよふに足りてまをまて

いひまをまてあつさばうあつさ

堀百

石上あつのみやこはちうられん

鹿さ園山

いひまをまてあつさばうあつさ

師歌

新在十八

挿紙花

あつさばうあつさばうあつさ

いひまをまてあつさばうあつさ後人不知

新在六

太長吟

君

あつさばうあつさばうあつさ

なまのあつさばうあつさ長方

右三

いひまをまてあつさばうあつさ

あつさばうあつさばうあつさ素性法師

あつさばうあつさばうあつさ

六百

加具

あつさばうあつさばうあつさ

いひまをまてあつさばうあつさ素性

拾部紙

いひまをまてあつさばうあつさ

外務部

公使

らかのよきそとちやらかきん後人
かたつるあつたさあつらうつら
うらふさるわこいりこわらわん

社

付神宮社

拾十四

本綿手襪

うらうらあらのやうらゆあさ
うけこのまやいらんとあひ
まわきうらわらうもいとのと

あらの解しと人わらまん

約六

あともあらのやうらまう

わうたじりともらわらうん

あともあらの解しらのをれみかの

万代

太刀緒

同

郭云

あともあらの今とすれを

いうのうらあらの社乃られとの

あともあらの口るあのこと

あともあらのやうらまう

あともあらの社乃社やは

非奴

真子院各

標

万十

非奴

百十一

あともあらのやうらまう

あともあらの社乃社やは

あともあらの社乃社やは

あともあらの社乃社やは

あともあらの社乃社やは

万十一

石上振神

石上

相六

新助五

紅系朱玉垣

新六

地帯

石上振神 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

害白本締

田 早田 荒田

万七

窪

千五

新在十一
万九

反九

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

石上乃 神威 惠我 更乃 鴨

新右一

いろのうとぬるれつは田よりうらと
うらみりぬるるまのくれりな 後如也

三橋川亭令

三橋川乃由多記入くたれ行り
うらのよと田ととぬるる也 新象

早苗

今又青月まぬくいろれり
ありれあり田はさるるどり行り 基氏

鏡後四

新六

石上うらのあり田乃草わらみ
いろりのかひのぬるるらん 知家

蛙

中道

うらのうられ中なるなりく
みまぬると思ひまぬ 貫之

左十四

鏡拾三

石乃上うられ中なるなりく
うらまけくくさけり反草 留季

反草

千五番

うられりぬるる中道よりなり
しりよりふやまるとれし 具親

小淵山

千破屋古うらの中よりぬるる
うらぬるぬるるの山 後如也

高橋

付標

石とわられたうらぬるる
いろりぬるるんよとぬるるけり

万七

万代

いろりぬるるぬるるのうらぬるる
みくをたけりぬるるぬるる 彌波

五月雨

新古四

弓張月

談後六

峯

百十

電

同六

同

あまのつらもさきまの山のまきわらわ

うらうらうらふらふらうれ月 談後

式崎やそらうらと山乃あさせ

やうれさきひとあつ月つを 後きお流

わらうらいさき海と山のまきわらわ

よらうらと月乃りまきわらわ

あつわたりと中山のまきわら

うらうれやけしとみゆらん けしお流

夕されも衣もさきとまきわら

山のまきとに君をさきわら

まきわらとまきわらとまきわら

龍

照射鹿

万代

龍津臨

万十

同

同二

野

野上付野路

伊豆のまきわらとまきわら 坂上島女

まきわらとまきわらとまきわら 順徳院

まきわらとまきわらとまきわら 順徳院

まきわらとまきわらとまきわら 順徳院

まきわらとまきわらとまきわら 順徳院

まきわらとまきわらとまきわら 順徳院

まきわらとまきわらとまきわら 順徳院

まきわらとまきわらとまきわら 順徳院

まきわらとまきわらとまきわら 順徳院

まきわらとまきわらとまきわら 順徳院

同二

同

同

万十
夕附夜

同
短橋

同八

自花

たゞみみららびふたの海と山と
 なく野と空とをまてりゆりたといふ
 くら玉かたれららる人のたぐひ
 二つありわれらあはれの衣をひらて
 くらとまわ 下雲
 春霞田葉列 命目之暮三伏一向夜
 不穢照浪長高松之野
 玄鶴折く高園のふささくら記
 くらあうらあうらあうらあうらあ
 た海とのあはれのふたをうきふ
 くらつらむのふたはひらけ

同八

豊姿
同二

同二

同
茅

同八

曉露

同十

同
鹿

同

高園之結野と乃 明後夜之花 于花
 香見人 挿頭師 明後夜之花
 た海とけくへり花をささけ
 ささけりあうらあうらあうらあ
 た海とのあはれのふたをうきふ
 あうらあうらあうらあうらあ
 秋風の日とに あうらあうらあ
 水と空とのあはれをささけ
 わらあをささけあうらあうらあ
 のゆり鹿の舞はあうらあ
 かりのふとささけあうらあ

雁

万北

娘部志

現六

同 博

万北

同 物部

同

暮

新古四風

聖德太子

雁のうへのまをえきつきたなり

あやめおかしきうのまをいしり

はあまけらうんたうはらの雁を

高圓乃秋のくまを記やよあ

をうらうらまよふ此をまにら

たりまの輝おく人の物まわ

あまよふまをわらわらんめ

たりまをれおくまをまのまの丹

ませよわらわらん我をまを

たりまののまをら乃まのつまを記

うらまをくまをわらわらん

月草房

同 卯花

新後六

宮

同 宮

万北

同

野司

秋のまをらまをら月をまをれ

あまよふまをら乃まをれ人のあ

まをら海とのへ乃卯花

まをれまをら人の月をのまをら

行のまをらまをら乃まをら

野司のまをれあまをらの宮

付乃上宮

宮の袖つまをら乃まをら

まをら乃まをら乃まをら乃まをら

高圓乃まをらのまをれ乃まをら

今まをら乃まをら乃まをら

万七

たう後この野のうへにまゝおどしつわ

おどしつわおどしつわ代とわをむい家持

客ののうへにうらなうたりまよとれ

まよ乃本まよもあれまよもらん家持

たうまよも乃角とれ客にたうて

客のうへにまよも乃角とれ客にたうて

まよつらまよも乃角とれ客にたうて

おののうへにまよも乃角とれ客にたうて

客のうへにまよも乃角とれ客にたうて

乃角とれまよも乃角とれ客にたうて

乃角とれまよも乃角とれ客にたうて

万七

君折

弘長百

續九三

新五四

比礼振

新五四

同十二

一月

現六

龍

卷向

山

万十

同十

同

おののうへにまよも乃角とれ客にたうて

客のうへにまよも乃角とれ客にたうて

乃角とれまよも乃角とれ客にたうて

乃角とれまよも乃角とれ客にたうて

乃角とれまよも乃角とれ客にたうて

乃角とれまよも乃角とれ客にたうて

乃角とれまよも乃角とれ客にたうて

乃角とれまよも乃角とれ客にたうて

乃角とれまよも乃角とれ客にたうて

乃角とれまよも乃角とれ客にたうて

乃角とれまよも乃角とれ客にたうて

万七

三毛ミモ口コヤ
三毛口ヤ其心申はあつて

同十

あまのめくつてよきよき
あまのめくつてよきよき

岸子松

同七

まのめくつてよきよき
まのめくつてよきよき

水保

春河

同

まのめくつてよきよき
まのめくつてよきよき

並

檜原

山宮

まのめくつてよきよき
まのめくつてよきよき

續古七

万十

拾地ふ

まのめくつてよきよき
まのめくつてよきよき

若菜

新出

まのめくつてよきよき
まのめくつてよきよき

小松原 法書

六指

まのめくつてよきよき
まのめくつてよきよき

花

現六

まのめくつてよきよき
まのめくつてよきよき

まのめくつてよきよき
まのめくつてよきよき

万代

まのめくつてよきよき
まのめくつてよきよき

岸岩

まのめくつてよきよき
まのめくつてよきよき

徳金

中を向乃松原乃...
じりーのわと紙...
定家

山 村峯

万七

おろろとれ...
のさうろ...
人丸

立百

誰...
い...
家隆

空家

岑 雅宋

現六

い...
松原
の...
親

宮

古相

並二

痛足

心...
山河
家隆

雲

風

あ...
好忠

山

万七

足病之山海石...
伊波比...

万十一

纏向之痛足乃山尔雲居乍雨者

雖零所沾在鳥來

まよひぬれあけの山乃山人

人色をみよふやまうらうせよ

桜きくありの山此をうらう

ひさしはくまそくつかよき風

郭云いつるあかりの山さくら

又いけやきと人うまそくせん

河

浦系のみありの河は流れ乃

よゆらき事うく又うりせん

万七

綾衣丸

あやのうすあはらみたり

万七

うら観うすけはききおさうり

新物土

きりこれありのうら川向

玉藻

片はくま色のうらえ思

六扶

みあえしはさるるあうら痛足乃

波白糸

あまうらうらむらじ浪の白ゆめ

新六

これハくまきりもあけきあり

うらうらうらうら我わらうらん

並三

観嶽

万七

痛足河之浪之奴来月之由観我高

万七

仁雲居立有ら志

三輪 山 杣山 茂山 河 田 里 市

神崎 并 佐野 渡

山 付 檜 原

万九 全 夫 山 ち り り せ ら ね じ ゃ ぶ 輪 山 ち

い ま じ つ 不 ち り ち 君 ち り ち ち

ふ 輪 山 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

人 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ま ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

う ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち 山 ち ち 山 ち ち ち ち ち ち ち ち

ね ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

檜

万代 十一

古二 鹿 苑

郭 云

後拾 十六

月

ち ち の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

月 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

回 人 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

い ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

み ち の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

禁 廻 檜

久 美

わたりつるまの人をたらしひん 家集

令口 除書し 松のまをまきつるのまを

て若 ちるのまをまきつるの山のま 皇居ま 抄序

松八 ちるのまをまきつるのまをまきつる

右八 客のまをまきつるのまをまきつる 信実

松三門 けり唐をまきつるのまをまきつる

右一節 或云三輪明神也 後入氣

松八 松のまをまきつるのまをまきつる

拾十九 けり唐をまきつるのまをまきつる

わたりつるまの人をたらしひん 家集

松拾二

松じつとつてまきつるのまをまきつる

人むたらしひぬと掃乃山りし 後入氣

松のまをまきつるのまをまきつる

松のまをまきつるのまをまきつる

松のまをまきつるのまをまきつる

松のまをまきつるのまをまきつる

松のまをまきつるのまをまきつる

松のまをまきつるのまをまきつる

松のまをまきつるのまをまきつる

松のまをまきつるのまをまきつる

松のまをまきつるのまをまきつる

松拾二

千五音

音通路

松拾二

挿頭玉

續拾六

九雪

花嵐

四廉

新古十

万七

廿五

よめやまきり乃れうきふかく家傳

あられやうき楊のむしれ山風

かきくしのむしれりいさなれつて桂伊五 實伊

あきしゆわさつちのひりのまはるあ

すれかちる花とくあきり家僧正 行意

しりうふみよのむしりよれく

さひよきりれあうき海也通具

初瀬山夕あきらわくやきりし

みよの松あきり松風うき孫世行

このりはくし幅山あきれりりあき

あきさのひりりやりあきり色

古来

八月雨

万一

同二

六扶

古十五

新後十三

八月あきりあきさきあきり

やうふうりあきりあきり

と幅山とあきりあきりあきり

こうあきりあきりあきり

神山あきりあきりあきり神本 經本 經

如世あきりあきりあきり高市白子

みよ山あきりあきりあきり

あきりあきりあきりあきり

と幅の山あきりあきりあきり

たうわり人あきりあきり伊勢

あきりあきりあきりあきり

松山

さくらんぼのつぼみは松山の春の信

規六

たつわんをよみてみよ

同

松人のあはれをよみてみよ

釜山

志げさあをよみてみよ

規五

あはれをよみてみよ

河

ゆふさすは津かきこしは河

蛙

規五

三橋川の水をよみてみよ

新屋号

さすは津のあはれをよみてみよ

岸板村

さすは津のあはれをよみてみよ

六枚

三橋川の水をよみてみよ

護衣布苗早苗

あはれをよみてみよ

規六

五月あはれをよみてみよ

戸龍水并株

あはれをよみてみよ

山田

あはれをよみてみよ

入日時 入日外より 扱乃むら 行意

里

大僧正道慶

仙相行合 扱の意を 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

兼水考 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

神 并社

味酒呼云 輪之祝 我忘扱手 觸之罪 扱

君之遇難す

三幣帛取神之祝 我鎮斎杉原燎木

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら 扱乃むら

卯苑

伊勢とららわのそらやうとまき
ゆうてきうくわら卯の花 定家

續古三

時多みまの松じこさきやそ

時考

さうさき物とさねとまきん 後之松を政
官

同五

まうのねと橋乃神松志られた

時叙繁

志うけしはまきねをさけりやそわ 後之松を政
官

五八

味酒乃とこのもさうさう山てり

規六

姑のりみられちりまきく 長屋王

五重芦

はひつたさくさねらわらさ

新五十帖

みまのやうらりまきく 後之松を政
官

新五十帖

思ふ事さうのせうりりえん

山松とたつあらさうのさうら 後成

崎并 佐野後

五三

たうらうとまきくさうらりら 奥磨

雨

狭野のまきくさうらりら 奥磨

郭五六

駒とめて神うらりらさうらり

さけくわらりの宮れゆくれ 定家

泊瀬

山小泊瀬 河泊瀬道

和百波都世又云勝麻世只是

同三

字訓不同也仍言一而載之

万十三

隱口乃泊瀬乃國爾左 結婚舟吾素

者棚雲利

下略 日本書紀

同及哥

隠来乃泊ハツセ少回シクニ尔ニ考ツニ有者アルハ

同三

石者履友イシハフメトモ猶来ニヒテキニナリ

同六

此のるく此物せよとめちよよし海をり

同十一

むんみさふれてありとひさしやま 石里

同十

よのせめ此はくちゆさるまみり

同十一

たふののみあふに嘆きさるるや

同十一

泊津風く吹かきあふんさるるや

同十一

らるるもくうらまはわらふとらねん

同十一

長谷谷子ハツセノヤ楓下ユツキカ吾陽エタニワ在妻カクセルツニ赤根アカ刺サレ

同十一

野光月夜テレルツキヨ雨人ヒト見ミ點鴨テンカモ

山 付峯尾上合簾真

万三

不知世經云

同七

あはらふかきいもよりとあらん

同十

くらく乃とませ乃山よくみさる

同十

たふひくさるを嬉よりし何ん

同十

海士小舟を何ともの山よあり當れ

同十

かすられかきせ乃山よきさつと

同十

らるるあまらるもの山よきさつと

同十

物影山若うえりけくみさる

同十

志すや月一梅うらなす

同十

吹をらる凡のさるあはれとみ

定峰寺

花

金一

天の霞

後拾二

梅

千五百

在明月

新五二

新五二

百三

さすけのちのち花のうらむるのち家
けつをいふや舟のちのちのちのち

あまのあまのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

花

百八

後拾二

梅

新五二

新五二

百八

後拾二

梅

新五二

凡二

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

さすけのちのちのちのちのち

賤諸環

松康

脱後

詞三

夕霧

千十二

山下凡

釣古十二

立万歳
丸上陸

松のふり入ぬまののまきまればさ

物候やま松の戸のたれぬら

うそてふきそむる松乃をのを忠定

とひせ山入のひの清のよきと

うらふふきくるさのかり長

夕穿し本は原ふたしと初せら

又あふめこのれふらうて道昌

うらふらふきくるさのかり長

うらふらふきくるさのかり長

うらふらふきくるさのかり長

うらふらふきくるさのかり長

新勅十七

嵐道

鹿藿野田

百七

月盈虧

鏡後六

沈六

若衣 房

万三

とつと山わらうらられとたれい

うらふらふきくるさのかり長

とつと山わらうらられとたれい

とつと山わらうらられとたれい

とつと山わらうらられとたれい

とつと山わらうらられとたれい

とつと山わらうらられとたれい

とつと山わらうらられとたれい

とつと山わらうらられとたれい

とつと山わらうらられとたれい

とつと山わらうらられとたれい

万十六 小糸山

こゝろいさよふなむらせ

五十二 小糸山

とらるわふこの書ふ見わをせ

五十三 小糸山

おとみまふまふをせけせの山

五十四 小糸山

おとみまふまふのふううし

五十五 小糸山

おとみまふまふのふううし

五十六 小糸山

おとみまふまふのふううし

五十七 小糸山

おとみまふまふのふううし

五十八 小糸山

おとみまふまふのふううし

五十九 小糸山

おとみまふまふのふううし

六十 小糸山

おとみまふまふのふううし

六十一 小糸山

おとみまふまふのふううし

万十六 小糸山

こゝろいさよふなむらせ

五十二 小糸山

とらるわふこの書ふ見わをせ

五十三 小糸山

おとみまふまふをせけせの山

五十四 小糸山

おとみまふまふのふううし

五十五 小糸山

おとみまふまふのふううし

五十六 小糸山

おとみまふまふのふううし

五十七 小糸山

おとみまふまふのふううし

五十八 小糸山

おとみまふまふのふううし

五十九 小糸山

おとみまふまふのふううし

六十 小糸山

おとみまふまふのふううし

六十一 小糸山

おとみまふまふのふううし

百七
白糸滝

ふれと川をゆめ花にゆりたる
せはるをきくはるはるはるはる

同
水沫

同 伯耆川をゆりくみまをれこはる

わくせよふくろきけをねもつあ

同
水尾

同 伯耆川をゆりくみまをれこはる

せよふくろきけをねもつあ

せよふくろきけをねもつあ

せよふくろきけをねもつあ

百九

同 伯耆川をゆりくみまをれこはる

せよふくろきけをねもつあ

同

三諸乃神於伊勢流伯瀬河

同

水尾を不勢音忘来や

同十三

はれ源うそそあうくそ谷川

せよふくろきけをねもつあ

後十九

せよふくろきけをねもつあ

せよふくろきけをねもつあ

せよふくろきけをねもつあ

せよふくろきけをねもつあ

せよふくろきけをねもつあ

せよふくろきけをねもつあ

せよふくろきけをねもつあ

せよふくろきけをねもつあ

白管社

後十九

白舟
船

隠口乃泊瀬乃川雨船浮而各行河乃
川隈ハ十河石橋家段顧乃乃玉
梓乃道新晚青丹者
下畧

右持統天皇和銅二年二月後在原

京遷于寧樂天時哥

天雲之新寒所見隱來笑長谷之河乃
浦冬改知依石未砥冬蚊海部之物
不為吉候ハ仲浦者也友吉盡矢寺砥
者無衣具津浪諺擗入本向水所
釣船
已母理久乃泊瀬之河之上瀬雨伊杭手

伊杭

打下瀬尔真杭手格伊杭尔攸鏡子也

真杭尔攸真玉字懸
下畧

同
鶉餅

隱來之長石川之上瀬雨鶉笑ハ
頭漬下瀬尔鶉笑ハ頭漬上瀬之年
魚美令昨下瀬之鮎美令昨
下畧

同
後枕

石乃海之川とのぬらりも
るくもさしれらぬもさるか
後枕之寺
下畧

同
産流 水

山り糸りもみなるねくもろを川
るやこの川のうりつらり
頼重
初瀬川花のこれなれまをそ
去あつらるるせり
常盤并
入道

同
建保而
苑水沫

現六訂
東流の波

たけぞる花のき波衣あそく
まろしぬぬらめく袖る

三訂

柏瀬道

たつしらあわつ中より梅の香
人吉さきせ多らけのたろ 先後

梅花

万十一

豊泊瀬道

隠心乃豊泊瀬道者常滑乃忍道
曾憲由眼

並一

忍坂山

隠來之長谷之山青階と忍坂山者走
出く直山之出立く妙山叙情山と荒

同十三

並二

古河邊

卷情毛

古旋頭奇

たけを河少方河の二二りとあつ松
年とて又もあひえし二かあつ松
ちうりきれまらわをれまよ初せ河

續後品

あり川の二乃少方りもの松 兼道

續拾十五

うへわろ右河の二りう河松若
ソの久人よまきふあひえん 資孝

同三

五月雨

五月ぬきあつ川の二水こして
波またいそら二りものよ記 雅有
又月雨の少方河の二乃松つら

水悲衝石

水鏡

おれをよそふ二りの後 花山院

新古三

まじきは枝やふりせ川

内大臣

あつたのふれ枝のすよふと有家

あつたのふれ枝のすよふと有家

あつたのふれ枝のすよふと有家

あつたのふれ枝のすよふと有家

あつたのふれ枝のすよふと有家

あつたのふれ枝のすよふと有家

あつたのふれ枝のすよふと有家

あつたのふれ枝のすよふと有家

あつたのふれ枝のすよふと有家

あつたのふれ枝のすよふと有家

